



競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、2024年 公益財団法人 日本陸上競技連盟競技規則及び大会規定により行う。また、本大会はトラック種目および跳躍種目をWR k対象競技会とする。WR k申請競技会につき、WA競技用靴規定を適用し、適用除外とはしない。審判長が疑義を抱いた場合、競技開始前、競技中、または競技終了後に競技用靴の検査を行う場合がある。競技用靴規定に違反して競技を行った場合は失格とする。

※競技用靴・靴底厚さ表(2024年10月31日まで)

種目	靴底最大の厚さ	要件備考
フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じ40mmとする。

2 練習について

- (1) 競技場以外での練習はすべて禁止する。
- (2) 練習の時間帯については下記の通りとする。

	ヤンマースタジアム	ヤンマーフィールド
6月12日(水)	13:00 ~ 17:00	13:30 ~ 17:00
6月13日(木)	7:45 ~ 9:00	7:45 ~ 17:30
6月14日(金)	7:45 ~ 9:00	7:45 ~ 17:30
6月15日(土)	7:45 ~ 9:00	7:45 ~ 18:00
6月16日(日)	7:45 ~ 9:00	7:45 ~ 16:00

※ヤンマーフィールドで投てき競技実施中は規制を設ける。練習会場係の指示に従うこと。

- (3) 両競技場とも練習は、トラック・跳躍種目とする。競技場備え付けの用具を使用すること。ゴムチューブ・ミニハードル等を使用しての練習は禁止する。
- (4) 両競技場ともフィールド（芝生）への立ち入りを禁止する。
- (5) 投てき練習は、競技場の内外を問わず一切禁止する。
- (6) 練習会場での練習は事前に注意事項を確認し遵守するとともに、必ず競技役員の指示に従うこと。

3 招集について

- (1) 招集所は、ヤンマースタジアムマラソンゲートに設ける。
- (2) 各種目の招集開始時刻・完了時刻は、プログラムの競技日程欄に記載されている。
- (3) 携帯電話・スマートフォン・タブレット等の電子通信機器は、招集所内・競技エリア内に持ち込まないこと。
- (4) 招集の手順
 - ① 競技者は、招集開始時刻までに招集所で待機し、競技者係の点呼を受ける。その際、アスリートビブス、競技で使用使用するシューズの確認を受ける。
 - ② トラック種目は、競技者係の点呼を受け、同時に腰ナンバーを受け取り、右腰のやや後方につけること。長距離・競歩種目及び混成競技の最終種目は、別ビブスも受け取ること。
 - ③ 代理人による招集の点呼は認めない。ただし、同日に2種目以上にわたって同時刻に出場する競技者は、第1種目の招集開始時刻までに、本人が所定の「多種目同時出場届」（用紙は招集所に準備）を競技者係へ提出し、併せて招集を受けることができない種目の点呼（アスリートビブス、競技で使用使用するシューズの確認）を受けておくこと。その場合に限り、招集時刻の点呼に代理人を認める。
 - ④ 招集完了時刻に遅れた競技者は、出場する意思がないものとみなし処理する。



(5) リレー種目について

- ① 「オーダー用紙」は、各ラウンド(予選・準決勝・決勝)ともに、その種目の第1組目の招集完了時刻の1時間前までに競技者係(招集所)へ提出すること。プログラム巻末の所定の用紙に、必要事項を記入のうえ提出すること。「オーダー用紙」の提出がない場合は、出場する意思がないものとみなし処理する。
- ② 出場メンバー全員が点呼を受けること。ただし、他種目に出場している場合は、上記(4)③に準ずる。
- ③ 4×400mの第2・3走者は、次走者の待機順を明確にするため、右腰に腰ナンバーをつける。
- ④ ユニフォームは同型・同色を原則とするが、形式は問わない。

(6) 男子5000m・5000m競歩と、女子3000m・5000m競歩は別ビブスを使用する。

(7) 混成競技について

- ① 1日目、2日目ともに最初の種目は、招集所にて指定された時刻におこなう。それ以降の種目は、混成競技控室で点呼を受け、当該競技役員の誘導により競技場所に移動する。(トラック種目は20分前、フィールド種目は40分前までには混成競技控室に集合すること)
- ② 他種目と重なっている場合は、あらかじめ混成競技係にその旨を告げ、競技者係に「多種目同時出場届」を提出しておけば、直接現地への移動を認める。また、このとき競技者はフィールド種目においては、いずれの種目を優先させるかを定めることができるが、トラック種目と重なる場合はトラック種目が優先となる。

(8) 招集所から競技場所への移動は、**競技者係**の誘導に従うこと。

(9) やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までに「欠場届」を招集所へ提出すること。用紙は、プログラム巻末の所定の用紙を使用すること。

4 競技進行について

(1) 番組編成及びラウンドの通過について

- ① トラック競技の予選のレーン順、および跳躍競技の予選・投てき競技の決勝の試技順は、すべてプログラム記載左側に示された番号順とする。なお、準決勝以降の組み合わせは、すべて番組編成員がおこない、場内スクリーンに表示してアナウンスで発表するとともに、「大阪高体連 WEB ページ」に掲載する。
- ② トラック競技における次のラウンドへの進出者について
 - (ア) (+α)を決めるとき、その最下位で同タイム(1/100単位)が出た場合、写真を拡大して1/1000秒単位で優劣の判定をする。
 - ・レーンに余裕がある場合 : 同タイム(1/1000秒単位)の選手の出場を認める。
 - ・レーンに余裕がない場合 : 本人または代理人により抽選する。
 - (イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、(+α)での進出者数を減らす。
 - (ウ) オープンレーンを使用する種目(800m含む)は、同タイム(1/1000秒単位)の競技者は、全員次のラウンドに進める。

(2) 競技について

- ① 競技結果については、場内スクリーンに表示しアナウンスで発表するとともに、「大阪高体連 WEB ページ」に掲載する。なお、競技結果が場内スクリーンに確定表示し、アナウンスされた時点を正式発表とする。
- ② 当該種目出場の競技者以外は、競技エリア内に立ち入ることはできない。
- ③ スパイクのピンの本数は、11本以内とし、長さは9mm以内のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以内とする。また、先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合しなければならない。
- ④ アスリートビブスは、配付された大きさのままで、ユニフォームの胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。
- ⑤ 不正スタートについては、混成競技を除いて、一度の不正スタートでもその責任を有する競技者は失格とする。混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者はすべて失格とする。(TR16.8、TR39.8.3、国内ルールを適用)
- ⑥ 男子5000m・女子3000m・男女5000Wは、危険防止のためグループスタートでおこなう。
- ⑦ トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走ること。
- ⑧ 4×100mのマーカ―は、主催者が準備し、競技前に各コーナーで出発係が配布する。競技終了後、必ず自チームのマークを前走者が取り除くこと。
- ⑨ 混成競技の走高跳は、事前に競技者に最初の高さの希望調査を行い、その結果をもとに2組に分けて実施する。
- ⑩ 混成競技の最終種目では、それまでの成績による順位を表す別ビブスを胸につけて競技をおこなう。背は競技者個人のアスリートビブス、腰はレーンナンバーとする。



秩父宮賜杯 第77回 全国高等学校陸上競技対校選手権大会 近畿地区予選会

- ⑪ フィールド競技において、近接の観客席に「コーチ席」を設けるので、競技者への助言はすべてコーチ席からおこなうこと。
- ⑫ 競技エリア内にビデオ装置、携帯電話、スマートフォン、タブレット等の電子通信機器を持ち込むことはできない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。
フィールド競技に出場している競技者が、それ以前の試技の映像をコーチ席以外の場所からの提示により見ることは認めない。なお、
 - ・ヤンマースタジアムでは、録画再生機器等をスタンドからの手渡しや吊り下げにより競技区域内に持ち込むことは認めない。
 - ・ヤンマーフィールドでは、コーチ席前の指定されたエリアの中で、録画映像を提供する人から手渡しで受け渡しが可能な範囲であれば、競技者は提供した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器を手にしてもよい。
- ⑬ 競技エリアに日傘、折りたたみ椅子、大型クーラーボックス等、競技運営や他の競技者に支障をきたす恐れのある物を持ち込むことはできない。
- ⑭ 競技場内での練習は競技役員の指示に従うこと。

(3) 跳躍種目の予選通過記録は、下記の通り。※6月5日の記録部会にて決定

	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳
男子	1m94	4m30	6m95	14m20
女子	1m62	—	5m50	—

(4) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、下記の通り。※6月5日の記録部会にて決定

男子 走高跳	予選	(練習) 1m85 1m91	1m88-1m91-1m94
	決勝	(練習) 1m88 1m94	1m91-1m94-1m97 以後 3cm ずつ
女子 走高跳	予選	(練習) 1m53 1m59	1m56-1m59-1m62
	決勝	(練習) 1m56 1m62	1m59-1m62-1m65 以後 3cm ずつ
男子 棒高跳	予選	(練習) 4m00 4m30	4m10-4m20-4m30
	決勝	(練習) 4m30 4m50 4m80	4m30-4m40-4m50-4m60- 4m80-4m85-4m90 以後 5cm ずつ
女子 棒高跳	決勝	(練習) 2m90 3m40 3m80	3m00-3m10-3m20-3m30- 3m40-3m50-3m55-3m60 以後 5cm ずつ
男子 八種競技 (走高跳)	1組	(練習) 1m35 1m56	1m38-1m41-1m44 以後 3cm ずつ
	2組	(練習) 1m56 1m74	1m59-1m62-1m65 以後 3cm ずつ
女子 七種競技 (走高跳)	1組	(練習) 1m17 1m32	1m20-1m23-1m26 以後 3cm ずつ
	2組	(練習) 1m35 1m50	1m38-1m41-1m44 以後 3cm ずつ

同記録による1位決定と全国大会出場権決定のバーの上げ下げは、走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

5 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、主催者が用意する投てき物一覧表の中にあっても、検査を受けて自己の物を使用してもよい。その場合出場競技者全員で共有できるものとする。全競技者の競技終了後、ヤンマースタジアム用器具庫前で返却する。検査時刻は、当該種目の競技開始時刻の90分前から60分前までとし、ヤンマースタジアムマラソングートから入り、ヤンマースタジアム用器具庫前までやりを持参すること。なお、混成競技のやりの検査は競技開始予定時刻の60分前までとする。



6 抗議について

抗議は府県監督が当該校顧問を伴ってTICに申し出る。

7 表彰について

- (1) 各種目6位までの入賞者を表彰する。成績発表後できるだけ速やかに受賞者席(ヤンマースタジアム1階 エントランス)に集合すること。他種目に出場している場合は、必ず表彰係に連絡のうえ、代理人を出すこと。なお、7位・8位の者にも賞状があるので、表彰係まで受け取りにくること。
- (2) 各種目表彰では、優勝者の所属校の部旗を掲揚するので、表彰係まで持参すること。
- (3) 表彰式では以下の表彰をおこなうので当該校(者)は必ず参加すること。
 - ① 男女別で総合・トラック・フィールドの部で第3位までに入賞した学校
 - ② 男女優秀競技者
 - ③ 男女各総合優勝校の監督

※全国インターハイ出場は、各種目6位までに入賞した者とする。ただし、走高跳・男子棒高跳は、6位までに入賞した6名。男女5000mWは5位・女子三段跳・女子ハンマー投は、4位までに入賞した者。女子棒高跳は、4位までに入賞した4名。男子八種競技・女子七種競技は、3位までに入賞した者及び各ブロック予選会の4～6位入賞者のブロック予選会記録(公認・非公認を問わない)の上位5名の者とする。

8 一般的注意事項

- (1) 競技場の開門は、4日間とも7時30分とする。
- (2) テント、シート、横断幕、のぼりについて
 - ① メインスタンド・バックスタンドは、事前に各府県で割り当てられた場所を使用すること。指定されている範囲を越えての場所取りは禁止する。
 - ② 競技場外の場所取りは、各府県で割り当てられた場所以外は一切禁止する。
 - ③ 競技場内外に設営しているテント・シート等は毎日撤去し、持ち帰るか小さくまとめてその場所に置いて帰ってもよい。(破損、盗難等の責任は負わない)
 - ④ 横断幕は各府県で割り当てられた場所に設置すること。また、大会期間中設置したままでもよい。
 - ⑤ のぼりの設置は、各府県待機場所(メインスタンド・バックスタンド)の最上段する。
- (3) フィールド競技中のトラック種目への一斉応援、トラック競技のスタート時における応援は慎むこと。なお、スタンド最前列及び中央通路での立ったままの応援は禁止する。また、スタンドでの日傘の使用は、他の観戦者に配慮すること。
- (4) 競技場スタンドには、立ち入り禁止区域を設けているので、立ち入らないこと。
- (5) スタンド・更衣室は常に清潔保持につとめ、ゴミ等は必ず持ち帰ること。
- (6) 練習会場内での日傘の使用は、安全確保の観点から禁止する。
- (7) 競技中に起こったケガについては、本部の医務室で応急処置のみおこなう。
- (8) フィニッシュ後のスタート地点への移動等は、競技役員の指示に従うこと。また、通行禁止や使用禁止の表示のある場合は、厳守すること。
- (9) 貴重品・荷物類は各自で管理し、盗難等に充分注意すること。